グループホーム　なのはな

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 **地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている**	高田町の「当該施設建設に伴う意見書」の記述に,当地域は、「緑豊かで、人情味あふれる所で－中略－地域との交流が確保される」とあるが、まず、この地域性に着目し、ご利用者がご入居後も単なる「施設入所者」としてではなく、「地域生活者」として暮らしていけるように、地域住民との関係性を創出する中、社会的な存在であり続けられることを指針とした理念をつくりあげている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み **管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる**	職員採用後に、理念を伝え、共感、理解を得るように努めている。担当者会議等で、適宜判例、事例をとおして、理念を具現化するにはどうしたらよいか、検証するように努め、日常の中にいつも理念が生きるように努めている。。		
3	○家族や地域への理念の浸透 **事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる**	運営理念は、⑴の「地域生活者」が、キーワードとなるが、生活理念として、共に「暮らしを耕す」を開設以来、キーワードとしており、その一環として、本年4月で36号刊になる広報誌を発信したり、また、「来るもの拒まず」の姿勢で、いつでも訪問の受入れや、地域行事にも参加させて頂き、周知に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい **管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている**	周辺は、昔ながらの村落共同体の色合いの濃い地域でもあり、相互扶助をその基本とする所と言え、開設後3年半の時の流れの中で地域の一員として認められ、利用者様の仏壇にとお供えの花を頂いたり、農作物を下さったり、散歩の途中で天満宮で雨やどりをしていると近隣の方が傘を持ってきて頂いたりと、有機的なつながりが日常化している。		
5	○地域とのつきあい **事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている**	当該地域の共同体の精神性とも言える「お社日さん」「千人参り」に参加させて頂いたり、リサイクル品回収日には、一緒に参加したりしている。近隣の保育園、小学校の学芸会、学習発表会に招待を受けたり、日常生活でも小学生が花壇の水やりにかわるがわる来てくれたりと世代間の交流も自然な形で出来ている。		

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	(○印)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 **利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる**	連綿と続く村落共同体とも言える当地で地域の高齢者ケアサービスの推進に還元していくような新しい取り組みは、今後の課題としたい。認知症の相談に限定されずに、農村の後継者のあり方、入院している方のその後の方向性等は、相談がぽつぽつあり、一緒に悩んでいる。	○	拙い管理者でもあり、また、営利法人による1ユニットの単独経営でもある為、人的環境、組織を基盤とした機動力にも限界があり、今後、認知症ケアの地域拠点の一助をどのように担っていくのかは、模索中としか言えない。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 **運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる**	公的介護保険が施行され、契約サービスとしての理念が浸透しつつある現状の中、単なる預かりサービスではないことは職員は理解しており、外部評価に取り組んでいる。具体的には、前年の評価後、自己評価と外部評価の相違点を一覧にまとめたうえで、スタッフ全員で認識した上で、協議を実施し、改善に取り組んでいる。。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み **運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている**	本年3月末で計5回の開催実績となるが、第一回会議は、事業報告書、事業計画書等の検証を実施して頂き、徐々に構成員からの懸案事項、または、ホーム側からの事故報告等を行い、その時々の具体的なサービス改善につながるように努めている。		
9	○市町村との連携 **事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる**	定期的なものとしては、、毎月「なのはな通信」を持参し、過去3年間情報交換等努めている。	○	1月29日市町村合併により、当該ホームが位置する高田町は、みやま市として再編された為、今後、新たに情報交換等交流を意識して深め、ご利用者のこと等理解して頂くように努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 **管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している**	研修等で得た知識等を機会があるごとに、職員会議1回/月話し合い、認識を深めるように努めている。対象となる方に説明出来る様に資料を整理、ファイルしているが、全ての職員が説明出来る態勢は出来ていない。	○	現在の社会的認知度並びに実害が伴う制度でもある為、全ての職員がその責任において説明出来る態勢作りは、今後の課題とし、当該制度の概略をある程度理解した上で、しかるべき関係機関への紹介を現在は進めたい。
11	○虐待の防止の徹底 **管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている**	施行されてまだ間もない法とは言え、人間の尊厳の根幹を成すものと言えるため、当該防止法については理解を深めるよう適宜協議している。重要事項説明書にもご利用者の権利の中で明文化しており、家族へも周知している。		

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 **契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている**	ご家族の認識度に応じ、「重要事項説明書」「契約書」の明文化されたサービス体系から順序だてて説明している。退所が必要時には家族や主治医の意見等も聞いた上で、検討することを説明している。利用料については、共益費と言うあいまいな名目の料金設定はせずに、食費も朝昼夕それぞれの食数で計算する等積算根拠を明確化した上で説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 **利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている**	介護相談員が1度以上/月の派遣態勢にあり、利用者の意見、相談にのって頂く態勢にある。 言葉として、表現されなくてもご利用者の行動の変化、表情からも「生きぬくさ」が常にあるか検証するよう職員に意識するよう努めてもらい、不満等が見られた場合は、まず共通の認識を持ってもらうよう朝夕の申し送り、申送りノートへの記述を行い、見落としのないように努めている。		
14	○家族等への報告 **事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている**	定期的なものとしては、毎月の広報誌送付の時、適宜文章や写真で、情報提供、理解をはかっている。金銭管理については、なのはな預かり金規定に基づき実施。緊急時の対応や報告を要する案件の時等は、電話やFAX,メールを活用し、迅速性、適切性に留意している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 **家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている**	重要事項説明書の中に苦情受付窓口を表記し、周知をはかり、具体的な対応策として、なのはな苦情解決要領を作っており、建設的な対応ができるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 **運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている**	小さな事業体でもあり、職員1人のモチベーションのあり方一つでも良くも悪くも大きな影響力を持っていることを認識し、月 1回の全員参加の会議運営、管理者が参加しての毎朝のミーティングを実施して意見等の表現の場に心掛けているが、不満と意見を客観的に見極め、運営に生かしているかは、管理者共、疑問に思う所である。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 **利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている**	開設以来、管理者は除いた所で、専任常勤介護職員を7人配置している為、行事や通院介助、夜間等の緊急避難的な対応も介護スタッフのシフトを再考することなく、管理者が臨機応変に対応できるように努めている。		

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 **運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている**	幸い、1ユニットの単独経営であり、法人内の人事異動はないが、退職者が出た時でも極力新規職員との引き継ぎ期間を置き、業務の引継ぎ、ご利用者へのダメージを防ぐように努めている。また、新規職員との関係性をどのように構築してもらったらよいのか、在職者とのコミュニケーションに留意している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 **法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している**	職員募集並びに採用に当たっては、労基法等関係諸法を遵守のうえ、実施している。働く環境に関しては、職員が第一者として当ホームに関われるような雰囲気作りに留意し、不完全ながらも権利としての自己実現の探求の場作りには心がけている。		
20	○人権教育・啓発活動 **法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる**	毎月実施予定の定例会議、朝の申し送り時等において、マスメディア等で取り上げられた事象等も適宜活用して、広く社会総体を介しての人権に関する意識の相互啓発に努めている。		
21	○職員を育てる取り組み **運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている**	1営利法人 1ユニットの運営形態の中で、ご利用者の日常的なサービス展開に影響のない限り、研修には参加してもらっている。伝達講習の場として、直近に開催される職員全員参加の会議の場で発表してもらい、研修報告、資料は、、ファイルし、閲覧できるようにしている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 **運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている**	県単位のグループホーム協議会に前年加盟し、主催する講習会に参加した実績はあるが、日常的な事業展開の中での定期的なものとしては、毎月、発行の広報誌を10箇所ほどの同業者に訪問配布する程度の活動しかしていない。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み **運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる**	事業所を離れた親睦会の開催の他に，定期的にレクダンス、紙芝居サークルの講師等と職員との会話の時間をなるべく作り、勤務時間内においても新鮮な話題が提供されるように努めている。	○	1営利法人 1ユニットの運営形態を基本とし、経済的基盤、人的環境が限られた中での夜勤者 1人態勢のストレスの解消、日勤者も含めた効果的な休憩のあり方等を含めた過度のストレス軽減のあり方の創意工夫は、具体策は明言できないが、常に大きなテーマとして取り組みたい。

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み **運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている**	早朝の日勤早出は出勤するまでの多忙な時間帯に夜勤者と共に炊事等の業務をこなしたりして、一体感を持つよう心掛けている。労基法上、員数から見て法定外である就業規則（期末手当の支給率に関する内規等）を整備し、民主的な運営を心がけている。	○	当該施設のような小さな事業体では、関連資格取得後の待遇や職種変更等、経営基盤、設置基準からみても難しい所があり、モチベーションをどのように維持してもらうかは、具体策は明言できないが、働く仲間として常に大きなテーマとして取り組みたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 **相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている**	ご本人の会話能力、意志表示に関係なく、介護職員2人による事前面会をすることを常としている。また、入居までに期間がある場合は、ご本人に必ず当事業所にご訪問を頂き、感想や表情、反応等を見させて頂くようにしている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 **相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている**	ご本人とは別に時間を作り、家族の中で総体的な意見を言ってもらえるであろう方と、何故、GH利用を選択されたか、その経緯を聞く中で今現在、困っていること、または、ご家族が入居後に疑問や不安に思う事を相談出来る関係作りに努めている。		
27	○初期対応の見極めと支援 **相談を受けた時に、本人と家族が『その時』まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている**	相談内容や公的介護保険サービス、福祉サービスの利用状況によっては、居宅支援事業所や、関係諸機関を紹介したり、共に窓口に出向いたり、または、紹介するサービスのパンフレットのコピーを差し上げたりしている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 **本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している**	入居に至るまでの期間に、ご本人に必ずお出で頂き、雰囲気を少しでも味わって頂き、他のご利用者との関係性、表情観察や感想を元にご入居へ結びつける。必要に応じて、一緒に転居時の調度品の選択、自宅からの運搬の手伝い等を行なったり、入居後の家族の直近における面会等の協力のあり方を相談したりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 **職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている**	同じ空間を共に生きる生活者として、その日一日の行動や近隣の小学生が遊びに来た時の喜びの共有し平地に田畑が続く筑後地方の原風景の中で、ひばりが鳴き始めた時の春の土の匂い等他者との関係性の中でふつふつとわいてくる感情や豊かな自然環境の中でにじみ出るような感性を大切にし、お互いに認め合う関係性の構築に努めている。		

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	(○印)	取り組んでいきたい内容 すでに取り組んでいることも含む）
30	○本人を共に支えあう家族との関係 **職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている**	ご家族の家庭環境、または、住居地により、ご訪問が限られるご家族の気持ちを第一義とし、日々のご本人の暮らしや気持ちのゆれ等を客観的に伝えられるように努める中、ご家族にはいつも臨場感を持った関係にあるように配慮させて頂き、ご家族との関係性の中で支援させて頂いてることを伝えるようにしている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 **これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している**	肉親の情愛を絶対の道標と位置づけ、お互いが物理的に離れて生活する中でも相互に存在を感じる時間の創出に心がけ、外出、外泊、温泉行、祭事の参加等積極的に勧め、必要に応じては、ご自宅まで送迎等を実施し、共にする時間つくりに努めている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 **本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている**	日々の生活が職員との関係性で充足されることのないように、墓参支援をしての住職、坊守との交流や以前参加されていたお社日さんへの参加、なじみの神社仏閣への参拝、衣料品店への買い物等の支援に努めている。また、ご友人も高齢化しており、訪問手段がなかなかない為、不定期ではあるが、送迎支援（原則1人暮らしの方）をしている。	○	ご利用者の平均入居年数が、2年8ヶ月となり、平均年齢もおよそ85歳となる中、年々、なじみの人との関係性が薄れて来ており、今後は馴染みの場所を通して、社会的なつながりの強化と出合いの場のより多くの創出に努めたい。
33	○利用者同士の関係の支援 **利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている**	職員は、ご利用者の得意または好きなこと（詩吟、裁縫、掃除等）を把握し、。お互いが集団生活の中で社会的存在として、「ありがとう」「頑張ろう」等の言葉かけが出来るような暮らしの創出に努めている。集団生活を不得手とするご利用者には、疎外感、孤立感のないように職員がその関係性に努めている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み **サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている**	退去先へのご訪問や広報誌を持参したり、ご家族からの必要に応じてのご相談に応じさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 **一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している**	生活者としての暮らしが、当ホームに入居したことで途切れないように、本人の返答能力に応じた言葉かけに留意し、意向の確認に努めたり、適宜家族の情報を得たりしている。		

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
36	○これまでの暮らしの把握 **一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている**	ご入居申請の時点、待機の期間、ご入居後、関係性が深まる時点等、適宜、信頼関係が構築される中で、把握に努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 **一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている**	ご利用者一人一人の生活リズムの把握に努め、日時変化等に留意し、その時にあった語りかけやご本人が最もしたい事の実現の支援をさせて頂くよう努めている。	○	ご本人の心身の状態を適切に表現できないご利用者の心象風景をより以上に的確に把握する術を管理者始め職員が今後どのように学習し、ご家族にも客観的に説明出来る記録等をどのように残していけるか、考察していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 **本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している**	ご本人を中心とした職員、ご家族の小さな関係から話し合いを始め、ご本人との関係性が深まる中で話題に出てきた趣味等の事柄や一番思い出として鮮明に残っている頃のこと等を1回/月の職員全員参加の会議で協議し、具体化出来る事は、介護計画の作成に活かしている。。	○	計画を具体化する為の個別的なかかわりのあり方や他の利用者とのバランス等、限られた時間の中での実効性に富んだ介護計画の作成に努めたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し **介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している**	計画・実行・検証をその基本とし、そのご利用者の認定期間の変更後や状態の変化時には共通の生活支援、ケア観が共有出来る様にご家族、関係者の意見を取り入れながら行なうように努めている。		
40	○個別の記録と実践への反映 **日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている**	個別ファイルとして、毎日の日課記録並びに食事・水分・排泄・バイタル・体重変化等の身体状況の記録を整理し、管理者参加の毎朝の申し送りの時に申し送りノートと共に情報の共有に努めている。また。	○	介護計画への有効な見直し材料にする為には、単なる経時録とならないように努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 **本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている**	前年、協力医療機関として在宅療養支援診療所と契約をし、ホーム内での医療処置を容易にし、ご本人の受診時の負担の軽減や無理のない早期治療や回復期における環境変化の負担の回避を支援している。通院介助または、高齢化したご家族の日常におけるご訪問の自宅や最寄の駅までの送迎を実施し、利便をはかっている。		

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 **本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している**	ご利用者の人間関係の広がりや緊急時に備え、最寄の交番、小学校、農協等に1回/月の広報誌を持参し、近況等を話す中で、関係性の維持、強化に努めている。		
42	○他のサービスの活用支援 **本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている**	訪問利美容サービスの利用や近隣の公園の風土歴史館、隣市の石炭博物館、図書館で開催された写真展示会、動物園等へ一緒に行ったりする。医療リハ利用に関しては、ご家族の要望、同意、本人に対する主治医の所見を元に支援している。		
44	○地域包括支援センターとの協働 **本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している**	当ホームからの働きかけとしては、1回/月発行のなのはな通信を前年12月から持参しているが、まだ、その域をでない。	○	社会資源としての包括支援センターとどのようにご利用者を介在して、協働態勢がとれるのか権利擁護事業等の具体的施策を通して検討していきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 **本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している**	原理原則、主治医については、ご入居以前からのホームドクターを含めた上でご本人、ご家族の選択としている。通院介助は、ご家族の要望がある場合は、職員が支援している。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 **専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している**	ご家族、ご本人の選択の中で、ものわすれ外来や心療内科医、精神科医等の日頃からのかかわりをもって頂き、入居時に当該専門医がいない場合は、当ホームで紹介するように努めている。		
47	○看護職との協働 **利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている**	在宅医療養支援診療所との契約に付随し、看護師が3回/週定期的に訪問があり、利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた相談、支援体制に努めている。	○	相談内容、申し送り、アドバイス等は、個別ファイル、申送りノートへ記録し、伝達の資料としているが、記録すべき内容等を今後、検討、吟味し、早急に行動に移す事項の記録整理となるように努めたい。

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 **利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している**	入院時には、たとえ深夜帯でも病室に入られるまで付き添い、治療プラン等の説明がある時は、許可の上、ご家族と共に説明を聞く等している。入院された時も実績として、2～3回/週以上は、面会に管理者が行き、生活空間、人的環境の変化する中、多少でもリロケーションダメージが緩和されるように努めている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 **重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している**	終末期の方を最後まで当ホームでの生活者として受容し、かかわるだけの人的環境も物的環境も現状では有していないため、かかりつけ医、協力病院、ご家族と話し合い、医療処置が要入院のなかでされたほうが適切と判断された時は、協議のうえ、入院等をその方向性としている。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 **重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている**	医療連携体制加算は申請、届出はしておらず、終末期ケアについては、今後の検討課題としたい。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 **本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている**	生活習慣、嗜好等のその人らしさに関する情報の伝達、必要に応じて、かかりつけ医の医療管理情報のスムースな提供のための周辺サポート等に努め、転居後の直近においては、訪問させて頂く等の支援に努めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 **一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない**	プライバシーに関しては、限られた生活空間でもある為、第三者の訪問がある時などは、職員間の申し送りや会話を十分注意するように常日頃から意識づけを心がけ、誘導時の言葉かけ、個人記録の取り扱いにも注意している。		

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 **本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている**	ご本人の意志表示が容易になるようにゆったりとしたさりげないかかわり方に注意し、言葉でうまく表現できない方の場合でも、その方の表情等で読み取るように努めている。	○	介護の名のもとに、ご利用者の希望の見過ごしや行動規制になっていないか、関係性が一方的な思い込みによるものにならないように、職員間でのいい意味でのチェック態勢は今後も追及したい。
54	○日々のその人らしい暮らし **職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している**	運営理念にあるように、ご利用者を「生活者」として同じ空間並びに時間を共有している視点に立ち、ご本人のその日の気持ちの成立ち、興味、突然の面会や外出等、生活実感と共に、柔軟性を持って暮らしが出来るように支援している。		
⑵その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 **その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている**	おしゃれに関しては、年々興味を失われるご利用者が多いのが正直な所であるが、なるべく興味を持たれるように洋服を誉めたり、他者とのかかわりの中でTPOに応じた衣類の選択をして頂くように努めている。ご利用者の経済状況、価値観等によるところもあるが、衣料品店への同行支援やパーマをかけられる方の支援にも努めている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 **食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている**	季節感や旬なものを食す、ことを基本とし、隣接する畑からの野菜をメニューにとり入れたり、もやしの芽つみ等の作業を協働でするように努めている。食事は、職員も同じものを共にするようにし、雰囲気つくりにも協力している。		
57	○本人の嗜好の支援 **本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している**	豊かな暮らしを実現するためにも嗜好品については、そのものを買いに行く支援も含めて支援している。		
58	○気持よい排泄の支援 **排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している**	個別の排泄チェック表を整備し、生活リズムに沿った支援ができるようにしている。原則、全員のご利用者に対してホーム設置のトイレに他者との共にする時間を不自然に中断することのないように誘導を心がけている。		

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
59	○入浴を楽しむことができる支援 **曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している**	入浴の時間が豊かな時間となるように、時間をかけ一人一人ゆっくりと時間をかけ実施している。入浴拒否や皮膚疾患等の状況に応じた納得のいく支援を心がけている。、		人的環境、夜間の防災体制を考慮し、夜間入浴は実施していないが、真に豊かな生活の一助になるなら常に課題として念頭には入れておきたい。
60	○安眠や休息の支援 **一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している**	日々の暮らしの中で体調変化に応じたプライベートルームでのい休憩支援やマンツーマンのかかわりの時間をつくり、精神的安寧に努めている。有明の海に沈む夕日を遠望することが出来るが、夕食を終えあたりが暗くなり、就寝に至まで精神的にもクールダウンするような落ち着いた雰囲気つくり（照明、話題等）に努めている。		
⑶ その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 **張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている**	他者とのかかわりの中にこそ、張り合いや喜びはある、との認識のもとに、炊事、裁縫、土いじり等を支援し、交わりの中に感謝の言葉が発せられるような支援を心がけている。賽銭箱を一緒に作り、近くのお地蔵さんに供えたり、皆で、学芸会や町のお祭りに観に行ったりしている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 **職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している**	若干、管理能力が不十分なご利用者でもご本人がお金の所持を希望した場合は一時的に紛失されることがありえることをご家族の理解を得たうえで自己管理をして頂いている。		
63	○日常的な外出支援 **事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している**	総じて皆の希望や個人的な望み、または、季節、時候を考慮し、散歩、海・公園・神社仏閣等へのドライブ、畑・庭いじり、花火大会等に出かけている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 **一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している**	ご利用者の生誕の地を訪ねたり、自宅への日帰り帰省、墓参等をご家族の理解のもと、積極的に支援している。		

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
65	○電話や手紙の支援 **家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている**	ボランティアの協力を得て、不定期ではあるがご家族や友人、普段お世話になっている医者等に絵手紙を出す支援をしている。電話については、ご家族の理解を事前に得たうえで、家族への電話の支援や友人への電話の支援、取次ぎを事務所内でしている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 **家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している**	原則、プライベートルームでの共にする時間を作っているが、状況に応じて職員がたちあったりしている。ケースバイケースで、ご家族や友人の送迎支援を実施し、面会時間については、夜間でも受け付けるようにして、仕事帰りの方の利便をはかり、行事等がある時は一緒に楽しんで頂ける雰囲気作りに努めている。		
⑷安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 **運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる**	重要事項説明書・運営規定に身体拘束の禁止を明記し、家族へ組織として誓約すると共に、日頃の会議や申送りの中で常に確認している。	○	今後も高齢者の権利擁護や身体拘束に関する意識を高めるような研修への参加、会議運営をはかりたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 **運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる**	介護、生活支援の基本は、人的対応を原則としている為、「玄関の鍵かけ」は一切しないことを旨とし、開設以来運営しており、近所の方や近隣の小学生の訪問の雰囲気つくりを促したり、ご利用者、ご家族に抑圧感、圧迫感のないようにしている。		
69	○利用者の安全確認 **職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している**	24時間を通して職員がパブリックスペースで時間を過ごすよう工夫し、夜勤帯の時は、定刻における全ての方の様子伺いと物音がした時はご利用者が精神的な不自由を感じないようにさりげない入室や巡回に努めている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 **注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている**	ご利用者の管理能力やその後の状況変化等を考慮し、裁縫道具、ポット、植木、薬等の所持のあり方を確認後、自己管理かホーム管理かその支援の方法を思考している。		
71	○事故防止のための取り組み **転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる**	誤嚥防止のために、医師等のアドバイスを受けた上での食事支援や服薬の工夫、または、避難路の確保や消防設備等の定期的な自主点検や法定点検を実施し、常日頃からの予防に努めている。また、万が一転等事故等がおきた時は事故報告書を作り、再発防止の検証を実施したうえでご家族への報告と運営推進会議への報告を実施している。。		関係諸機関の協力を今後も得る中、継続性を持ち、徹底的な予防策を講じていきたい。

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
72	○急変や事故発生時の備え **利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている**	職員全員に普通救命講習を受講してもらっているが、定期的な実施ができていない。		積極的に関係諸機関から外部講師を招へいし、定期的な実行につなげたい。
73	○災害対策 **火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている**	なのはな消防計画に基づき、2回/年避難誘導訓練や消火器訓練を実施している。		深夜火災を想定した訓練が実施されていない為、実行したい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い **一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている**	スケールメリットを生かし、濃密な人間関係の構築に努める中、当ホームが運営されていることを説明したり、または、日頃の面会時の雰囲気を感じて頂いたりする中、密室サービスになる事のないよう事業展開をしていることを理解して頂き、生活用具や介護機器の利用にしても人的対応を基本としていることを説明し、規制や抑圧感のない暮らしの創出に努めていることを適宜実施している。		
75	○体調変化の早期発見と対応 **一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている**	一般状態の把握に努め、食事摂取量、排泄チェック、バイタルチェック等の毎日の記録を残す中、ご本人の訴え、表情等と総体的に判断するように努めている。状況により、職員間で必要な情報を共有し、具体的な行動をとれるように努め、必要に応じて、医師への連絡相談、往受診を支援している。		
76	○服薬支援 **職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている**	処方が変更された場合の記述、申し送りの徹底をはかり、、病院発行の薬の説明書を個別記録にファイルしていき、過去の服薬経過もわかる様にしている。処方、用量の変更に伴う状態変化が表れた時は速やかに医師や看護師への連携をはかるよう努めている。		
77	○便秘の予防と対応 **職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる**	原則として、自然排便につながるような繊維質の食材を意識的に多く取り入れ、乳製品の摂取、適度の運動を支援している。		

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
78	○口腔内の清潔保持 **口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている**	毎食後のプライベートルームにて、口腔ケアの支援を状況に応じ、支援すると共に、就寝前の義歯洗浄並びに管理の支援を個別にはかっている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 **食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている**	食事量や水分補給量、体重チェックを個別に記録しながら、状況把握に努めている。その食に対する興味をもって頂けるように、食事時には、食材を説明しながら職員が共にし、体調不調時は、きざみ食、お粥を必要に応じ実施して、ご本人の居室でゆっくりと食して頂いたりしている。		1週間の献立表を担当職員が交代制で作成し、ご利用者の意見を聞きながら、旬のものを取り入れたり、マンネリ化しないように努めているが、公的機関の栄養士等の協力を得て専門的な視視点を取り入れた支援を考えていきたい。
80	○感染症予防 **感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）**	各種マニュアルを作成し、感染症予防に努めるようにしている。ご利用者、スタッフ共にインフルエンザ予防接種を実施し、結核検査も実施し、予防に努めている。ノロウイルス対策として、それに合わせた手指並びに食器洗浄液を使用し、定期的に手すり、ソファーの消毒液での洗浄も実施した。		感染症に関しては、食中毒、皮膚疾患等多岐に渡り、生命に直接関係する事もあるので、これで万全と言うことはなく、今後も新しい情報を取り入れる中、対策、研修、伝達講習の徹底をはかりたい。
81	○食材の管理 **食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている**	食材は、2～3日分の買出しを基本とし、、まな板は、食材にあわせて用意している。調理器具、台所周りの衛生管理に努め、感染症に対応する洗剤を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 **利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている**	周辺は古くからの農村共同体とも言える地域であり、原風景に溶け込むように華美な看板等は立てずに、丸太のベンチや菜園、花壇を作り、地域の景観と違和感のない雰囲気つくりに努めている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり **共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている**	生活感、季節感のある生活空間作りを心がけ、炊事の音、調理等の生活のにおいを感じたり、朝日や夕日を体感してもらうように、ロビーでの過ごし方を工夫している。		

項　目		取り組みの事実 実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり **共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている**	ソファーを3区分、食堂テーブルを2セット配置する中、自らが一番落ち着ける所が確保出来る様に配慮している。ロビーからは、オープンテラスそして、庭へと出られるようになっており、職員の見守りの範囲の中で自分の居場所を見出すように工夫している。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 **居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている**	個人差はみられるが、お位牌や家族のアルバム、植木鉢等を持参される中、一人の生活者として潤いのあるプライベートルームとなるように努めている。		
86	○換気・空調の配慮 **気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている**	ご利用者の居室には、冷暖房器と換気空清器を各1台づつ設置しており、外気の寒暖に応じた温度調整並びに換気に努めている。ロビー、食堂、トイレ等は、換気を十分にする中、心身共に快適な暮らしが送れるように注意している。		
⑵本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり **建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している**	玄関入口の点字ブロック、スロープの設置や上下可動式のものを含め、廊下、浴室、トイレ等に手すりを設置し、物的環境からも自立支援に役立つように配慮している。入浴用車椅子等を準備し、個人の状況に応じた生活支援が出来るようにしている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり **一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している**	他者との関係性の中で、または、周辺の物的環境の中で混乱や失敗をされる生活場面は人間である以上、誰でも可能性があるとの認識に立ち、当該状況がおきた時は本人の意欲を感じられる事項を探し自身の回復につながる配慮をしたり、調度品を工夫したりして物的環境を変える中、混乱を防ぐよう努力している。。		
89	○建物の外周りや空間の活用 **建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている**	建物が四方、花壇や菜園に囲まれており、車椅子利用者の方も含めて、風を感じ、、多くの四季の生き物と出会う場がある。平野部に位置する為、農作業をされる近隣の方たちの姿や農作物の実るなじみの風景が四季折々展開され、自然を身近に感じながらの暮らしがされている。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の 2/ 3くらいの
			③利用者の 1/ 3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の 2/ 3くらいが
			③利用者の 1/ 3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の 2/ 3くらいが
			③利用者の 1/ 3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の 2/ 3くらいが
			③利用者の 1/ 3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の 2/ 3くらいが
			③利用者の 1/ 3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の 2/ 3くらいが
			③利用者の 1/ 3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の 2/ 3くらいと
			③家族の 1/ 3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の 2/ 3くらいが
			③職員の 1/ 3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の 2/ 3くらいが
			③利用者の 1/ 3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の 2/ 3くらいが
			③家族等の 1/ 3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは有明干拓地に位置し、朝な夕なにお日さまをみる事ができ、四季を通じての自然の流れを体感しながら、おおらかな時の流れの中で暮らしています。内在しているであろう自然の癒しの力を十二分に生活の中に取り入れ、自然との共生感を大切にし、ご利用者が「地域生活者」として暮らし、近隣の住民や子供達との「であいの場」が日常化する中、社会的な存在として「感じ」「ふれあう」関係性の創出に開設以来、努めてきました。当ホームは、その意味では、ご利用者が主役となり、職員、地域と共に創りあげる生活共同体と言え、日々の変化にも介護の名の元にご利用者の生命の発露を抑圧することのない空間と時間の在り方を工夫しています。